

【 ドーピングチェック 】

本大会は、日本アンチ・ドーピング規程に基づくドーピング・コントロール対象大会です。

本大会参加者は、大会にエントリーした時点で日本アンチ・ドーピング規程にしたがい、ドーピング・コントロール手続の対象となることに同意したものとみなします。

未成年者(18歳未満)は、ドーピング検査を含むドーピング・コントロール手続に対する、親権者からの同意を所属競技団体へ別途提出している選手のみエントリーすることができます。

本大会参加者は、本大会において行われるドーピング検査(尿・血液等検体の種類を問わず)を拒否又は回避した場合、検査員の指示に従わない場合、帰路の移動等個人的諸事情によりドーピング検査手続を完了することができなかった場合等は、アンチ・ドーピング規則違反となる可能性があります。

アンチ・ドーピング規則違反と判断された場合には、日本アンチ・ドーピング規程に基づいて制裁等を受けることになるので留意してください。

日本アンチ・ドーピング規程の詳細内容およびドーピング検査につきましては、公益財団法人日本アンチ・ドーピング機構のウェブサイト (<http://www.playtruejapan.org>) にて確認してください。

【 ヒートルールの運用 】

近年注意喚起されている、暑熱下でのプレーの危険性への対応策として以下の通りの対応とします。

1. ヒートルールの採用

全日本学生テニス選手権大会では、男女シングルス共にヒートルール(最終セット前に 10 分間のコート外での休憩)を採用する。会場内に設置する黒球温度計において、WBGT31℃ 以上または気温 35℃以上を記録した場合、ファイナルセット前に 10 分間の休憩(セットブレイクを含む)が認められる。この 10 分間の休憩ではトイレ、着替えは出来るが、コーチングを受けることは出来ない。又、試合進行中に気温が下がった場合でも、一度ヒートルールが決定された試合には、試合途中で中断がない限り、休憩は解除されない。気温の測定は、試合開始 30 分前と試合開始 1 時間後から 1 時間ごとに測るものとする。

2. JTA公式トーナメント競技規則「25.メディカルルール」の「8.身体的プレーの限界の適用

身体的に試合を開始、続行できる状態でないとトレーナーまたはドクターが判断した場合は(プレーを開始あるいは続行することが選手に悪影響を及ぼすと判断した場合は)、レフェリーが医学的アドバイスやあらゆる状況を考慮し、選手を棄権、あるいはリタイアさせる最終判断を行う。

3. HeaLoの活用

熱中症予防の目的に HeaLo を運用するので、大会前日から選手自身が体調をインプットし体調を管理する。

事務局は大会当日に HeaLo の入力内容から熱中症リスクの高い選手に注意を促す。

【 肖像権に関する取り扱い 】

全日本学生テニス選手権大会(男子・女子)における登録選手及び指導者(以下「選手等」といいます。)は、以下の各事項が実施され、選手等の肖像、映像、氏名等が報道、放送されることがありますので、ご理解ください。試合出場に際しては、下記の定める使用範囲において使用することに選手等の同意があったものとみなします。

- ① 本連盟が認めた団体が撮影した写真が、新聞・雑誌・大会報告書・記録集及び関連ホームページ等で公開されること。
- ② 本連盟が認めた団体が撮影した映像が、中継または録画放映されること。
- ③ 本連盟が認めた団体から、個人またはチームに対し、撮影や取材を実施すること。